

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人 民生博愛会

大野保育園

1. はじめに

- 平成30年度は98名でスタートし、1番多く入所していた時で104名であった。前半の半年は乳児の途中入所が少なく伸び悩んだが、後半からは乳児の途中入所も増えた。未満児の途中入所が例年多いので、早い段階で短時間職員(パート保育士)を採用して保育士の確保をした。
- 子どもの姿から育ちを読み取り、保育士が適切な援助をすることで遊びの質が深まった。1日の大半を保育園で過ごす子ども達の様子をしっかりと伝え保護者の状況に合わせて支援をしながらコミュニケーションを図り信頼関係を作る努力をした。また、丁寧な対応説明と明るい挨拶を心掛けた。
- 園長は職員間の同僚性や協働性、又保育士としての資質や対応の仕方を高めていく姿勢を忘れずに保育や保護者との対応ができるようにした。
- 平成30年9月の地震の影響からの停電で、浄化槽のため調理室とトイレが使用できなくなった。その時は、他園より大きな発電機を借りて使用する事ができたが、今後のことも考えて浄化槽に対応できる発電機の購入と災害食の在庫を増やした。
- 数年後に認定こども園に移行することを見据えて、平成30年度も幼稚園教諭の免許更新を順番に行っていた。

2. 保育活動

①保育目標について

子どもは豊かに伸びていく可能性をその内に秘めている。その子どもが、最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うことに重点をおき、下記のことを目標とし保育を行った。

- ◎健康で心身共に丈夫な子
- ◎良い悪いの判断が出来る子 (道徳心の芽生え)
- ◎やる気、根気のもてる子 (意欲・自発性)
- ◎思いやりのある子 (共感性)
- ◎笑顔の絶えない子

②保育内容について

子ども達は心身共に健康で全面発達を保障し、安心してゆったりとした気分で快適に過ごせるよう保育を進めた。また、一人ひとりの発達過程に応じて個人差に配慮した。子どもの個性を大切にしながら、基本的な生活習慣の確立を図った。

- ・子ども自身の個性を十分に認め、一人ひとりの発達過程が心身の状態に応じた適切な援助をすることに努力した。
- ・裸足、薄着の習慣を付け、体力作りに励んだ。
- ・園外遊びを活発に取り入れる。好天の時にはできる限り戸外へと出掛けた。また、砂遊び・水遊びや雪遊びを活発に行った。
- ・縦割り保育、異年齢児交流を図った。
- ・保護者参加の諸行事を行うことにより保護者と交流を深め、保護者に子ども達の様子を見てもらった。
- ・避難訓練や交通安全指導を実施し、有事の際の避難行動を習得した。(毎月実施)
- ・食育指導や保健指導を実施し、自分の体や健康に関心を持てるようにした。(年6回実施)
- ・週1回リズム運動を実施し体力の増進を図ってきた。リズム感、柔軟性を養うことが出来た。保育参観日でも見てもらい、喜んでもらった。又、集団遊び・ゲーム遊びを定期的に行いルールを学び集団で遊ぶことの大切さを習得した。

③保育計画について

- ・0歳～6歳まで一貫性のある計画とし子どもの発達の状況や日々の状態によっては、指導計画にとらわれず柔軟に保育を進め、保育士の連携体制の中で個別の関わりも十分行った。
- ・養護と教育を基本において、教育及び保育の内容に関する全体的な計画・年案・月案・週日案・個別計画と適切に立てられ保育を進めた。
- ・子どもへの愛情をもって一生懸命子どもと向かい合い、子どもを主体とした計画を作成していく大切さを痛感し、職員のチームワークを重視した。
- ・子どもの生活と発達の連続性を視野に入れ、計画・実践・評価をすることで保育の質の向上に繋がる事が実感できた。

- ・各書類に関しては、常に保育を見直し定期的に自己評価を行い、その結果に基づきより良いものを作り上げる努力をした。

④保育環境について

- 園児が安心して快適にそして安全に過ごすことができることを目標として、次の通り実施してきた。
- ・保護者と離れて長時間過ごす園児が、不安を感じずに安心できるように、クラスはもとより、園全体も家庭的な雰囲気作りを心掛けてきた。
- ・園内外は常に清潔を保ち、特に保育室やトイレなどをはじめとした常時使用する場所は、毎日清掃と消毒を行い常に清潔を保った。
- ・施設内や園児が使用する寝具・マット・食器・遊具等についても日々点検を怠らず、清潔を保つよう心掛けた。(月1回の点検と毎日の点検)
- ・各種マニュアルや点検表を作成し最善な環境を整える努力をした。
- ・備品の状態を常々把握し、危険な箇所や破損があった場合は迅速に修理修繕を行い、園児及び職員が事故なく安全で快適に生活できる環境作りを心掛けた。
(施設等自主点検表・下記関係自主点検表を利用)

⑤保育開始日及び保育終了日について

- ・保育開始日 平成30年 4月 1日
- ・保育終了日 平成31年 3月31日

⑥開園時間・休園日について

- ・開園時間
月曜日～土曜日 午前7時00分～午後7時00分
* 保育標準時間認定…午後6時～午後7時までを延長保育とし、利用者からは延長保育料を徴収した。
* 保育短時間認定 … 午前7時～午前8時までと午後4時～午後7時までを延長保育とし、午後4時以降の利用者からは延長保育料を徴収した。
- ・休園日
日曜日および祝日・国民の休日

3. 特別保育事業について

①障がい児保育

平成30年度は障がい児保育に該当する園児はいなかった。

②延長保育

保護者の就労形態から求められる必要性の高い事業なので積極的に行った。年度当初の計画よりも利用人数が多かった。

- ・保育標準時間認定…午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料(おやつ代含)
- ・保育短時間認定……午前7時～午前8時 無料
午後4時～午後5時 1回150円の延長保育料
午後5時～午後6時 1回150円の延長保育料
午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料(おやつ代含)
- * 年間利用人数 保育標準時間認定 … 1, 292名
保育短時間認定 …… 5名

③一時預かり保育

保護者の事情により、1ヶ月で12日を上限として子どもを受け入れた。年度当初の計画よりも利用人数が多かった。

- * 利用時間 午前8時00分～午後4時00分

- * 利用料 1,800円
- * 年間利用人数 115名

④世代間交流

- お年寄りと一緒に暮らすことがなく成長してきている子ども達が、お年寄りとの触れ合いを持つことにより、父母とは違う優しさや暖かさを知ってもらうため、お年寄りとの交流を行った。
- * 老人ホームへの訪問を実施。(年間7回・感染症流行のため1回中止)
- * 行事の時に近隣及び園児の祖父母を招待し、お楽しみ会を行った。(年間3回)

4. 給食業務について

- ・薄味を心掛け、おいしく、食欲のそそる盛り付けで提供した。
- ・アレルギー除去食、離乳食ともに出来る範囲で調理し、食器に名前を付けて間違えることのないように提供した。
- ・季節感が感じられるもの、手作りのおやつなどに留意して園児に提供した。
- ・検食は職員が交代で行い、給食材料及び調理完成品は保存食として冷凍し規定日数保存した。
- ・食育計画に基づき「食べることを楽しく」になるよう努力した。また、年6回食育指導を行った。
- ・毎日の給食を献立サンプル展示台で保護者に知らせた。
- ・調理室は衛生的・安全面ともに十分な配慮の中で提供できた。
- ・栄養士との連絡を密にとり、食材・産地の安全面に十分注意し、園児にとってより安全な給食を提供できた。

5. 保健衛生・安全点検について

①保健衛生および検便について

- ・主任保育士・正職員及び調理業務に携わる者や未満児のミルク、離乳食に携わる保育士も月1回の検便を義務付け実施した。なお、この場合の検便細菌調査はBML社とした。
- ・食中毒の発生皆無を目標とし、調理用手袋着用、洗剤での手洗いや消毒、調理室内の清掃、食器類の高温乾燥消毒を毎日行うなど日々の業務に十分注意を払い徹底してきた。
- ・園児は手洗い後、ペーパータオルを使用し消毒した。また、コップは給食食器以外は個人コップ・紙コップを利用した。
- ・手洗い後は職員・園児も必ず手指消毒を行い、衛生面や消毒の必要性についての意識をより高め、習慣化を行った。
- ・保健計画を作成しながら進められた。
- ・トイレは塩素消毒を行った。
- ・嘔吐物処理セットを用意し素早く対応し感染症などの流行時には役立てた。また、病気などの情報提供や注意を呼びかけた。

②怪我について

- ・怪我・事故防止マニュアルを作成し、怪我の内容を把握し、常に園児達の様子に注意をして怪我の未然防止に努力をしてきた。
- ・ヒヤリハット報告を行い、その内容を周知し対策を協議した。
- ・怪我が発生した時の対応、園児帰宅後の対応、怪我発生時の経過記録作成などで対応した。
- ・日本スポーツ振興センター・園児総合賠償保険・特別保育事業各種保険に加入した。

③安全点検について

- ・園内外の点検を日頃から徹底して行い、古い物や危険な物から交換・修理を行った。
- ・玩具・遊具は、使用できない物や破損して物から取り替えを行い、安全な玩具を提供した。
- ・玩具は必要に応じて随時消毒を行い清潔を保つ努力をした。
- ・砂場の管理を重視し、消毒を行い清潔を保つ努力をした。
- ・午前9時30分～午後2時30分まで、午後5時00分～午後7時00分まで玄関を施錠し、インターホンで職員が確認してから解錠した。

- ・施設内・園庭・遊具等・火気関係の安全点検を月1回と毎日行った。
- ・各種マニュアルを作成し、万が一の時に慌てることなく適切に対応できるように心掛けた。

6. 各連携について

①保護者との連携・対応

核家族化が進み、離婚家庭が年々増加していることを考えると、益々家庭と密着した連携が必要となる。それらのことを考慮して保育活動を展開し、保護者が安心して子どもを預けることのできる保育園を目指した。

- ・入園前の保護者への説明を行い、保育への理解をお願いした。
- ・年度始業にあたり父母会総会を設け、年間行事予定を連絡し、又質疑応答に応じ互いに検討して実施してきた。
- ・保育参観日及び懇談会を実施して保育の内容をより知ってもらうようにした。
(面談は稼働している保護者の時間帯に合わせ、全員が面談できるように配慮した)
- ・父母会が主体となり廃品回収事業を実施して、その回収金額は父母会費に納入した。
- ・保育通信や園だより・ほけんだより及びクラスだよりを発行し、必要なときは随時追加発行を行ってきた。
- ・連絡ノート・張り紙・ホワイトボード等も活用し、保護者との連絡に遺漏のないようにしてきた。
- ・年度末に保育園利用者アンケート調査を行い、結果を公表した。その中で、職員の対応や言動に対しての意見が多かったので、職員への指導と教育がより一層必要だと痛感した。

②関係諸機関について

- ・北斗市役所との連携を密にし保育活動の増進を図った。
- ・地域療育センターと連携し、支援が必要な子どもについての保育内容を進めた。
- ・幼稚園・保育園・学校のグループの一員として連携を密にし保育の増進を図った。

7. 職員資質の向上

保育ニーズへの対応をするべく職員は、保育の諸活動を通して知見と人間性を深め、知識や技術、そして自己研鑽に努める努力を怠らないようにしてきた。

- ・保育活動中の園児への言葉掛け等をはじめとする指導方法に注意しながら取り組んだ。
- ・保護者や園外の方への対応で必要な挨拶や電話の対応など、社会人として必要な教養を身に付けるよう努力した。
- ・華美やだらしない服装など他の人に違和感を与えるようなことは絶対に避け、保育園の一員として相応しい身だしなみを身に付けるようにした。
- ・保育に不可欠な知識や教養を身に付けるため、各種研修会に積極的に参加した。
- ・認定こども園移行に向け幼稚園免許更新講習を積極的に受講した。

- 《 参加研修会 》
- ・運動会実技研修会
 - ・乳児保育担当保育士等研修
 - ・障がい児保育担当保育士等研修
 - ・感染予防対策研修会
 - ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」解説 北海道支部研修
 - ・幼児教育を語る会
 - ・発達支援コーディネーター養成研修
 - ・渡島保健所管内特定給食施設等従事者研修会
 - ・保育施設長セミナー
 - ・キャリアアップ研修(乳児保育・幼児保育・保健衛生・安全対策)
 - ・渡島保育協議会 新任保育士等&サポーター研修
 - ・北斗市保育連合会 研修会
 - ・社会福祉法人・社会福祉施設ブロック研修会
 - ・社会福祉施設経営実務セミナー
 - ・共済業務新任者研修会
 - ・社会福祉法人実務者決算財務分析講座

8. 地域子育て支援センター「夢のポケット」

時代背景の移り変わりと共に親子のあり方、子育て不安や育児ノイローゼが進む中、地域の保育園としてサポートしていく場と考え平成20年度より北斗市から委託を受けて事業を行なった。北斗市・保健センター・ピュアランド(七重浜こども園)・ちいぱぱクラブ(浜分こども園)・なかよし広場・おひさまクラブ(第二東光保育園)、との連携を密にして行った。

・相談業務 …来園相談が7件 電話相談が113件

・センター登録数…家庭数43家庭 子ども数66人

・活動内容

* 通年活動

月曜日～金曜日 9時30分～12:00 13時30分～16時00分

お母さん講習会…7回 お誕生会…4回 ポケットだより発行…12回

* 市内5支援センター合同事業

夏祭り・にこにこ運動会・クリスマス会・にこにこニュース発行

* 主な季節活動

4月 おゆうぎ室で体を動かして遊ぼう・こいのぼり製作

5月 お花見散歩・赤松公園遠足

6月 いちご狩り

7月 七夕飾り製作・プール遊び・赤松公園遠足(水遊び)・ガラスアート講習会

8月 プール遊び・レインボールーム作り

9月 ポケット秋祭り・パン作り講習会

10月 ポーセラーツ講習会・ハロウィン製作

11月 豆腐作り講習会

12月 クリスマス製作・キャンドル作り講習会

1月 新年会・ひのき屋獅子舞観賞

2月 節分・クッキング講習会・ひな祭り製作

3月 ドリームキャッチャー作り・お別れ会

9. 施設整備及び備品購入について

《 建 物 》

・なし

《 備 品 》

・ノートパソコン購入

・発電機購入

《 構 築 物 》

・なし

10. 年間行事について

平成30年度年間行事予定を作成し保育活動を展開した。又、保護者にも予め年間行事予定表を配布し保育活動に理解及び協力を求めた。日程を変更したものもあるが、全ての行事が予定通りに終了する。

11. 参考資料

①月初日の園児数

月	北 斗	七 飯	函 館	合 計
4月	95	2	1	98人
5月	95	2	1	98人
6月	96	2	1	99人
7月	97	2	1	100人
8月	96	2	1	99人
9月	95	2	1	98人
10月	99	2	1	102人
11月	99	2	1	102人
12月	99	2	1	102人
1月	99	2	1	102人
2月	100	2	1	103人
3月	100	2	1	103人

②職員の状況

職 種	人 数	備 考
園 長	1名	
副 園 長	1名	
保 育 士	21名	正職 9名 常勤臨時 4名 パート 8名
調 理 員	3名	正職 1名 パート 2名
用 務 員	1名	給食兼務 常勤臨時 1名
支援センター	2名	正職員 1名 パート 1名
合 計	29名	